

☆年間第14主日(7月5日)の聖書朗読☆※主任司祭からの解説があります。

第一朗読 (ゼカリヤの預言 9章9～10節)

主は言われる。

娘シオンよ、大いに踊れ。娘エルサレムよ、歓呼の声をあげよ。

見よ、あなたの王が来る。

彼は神に従い、勝利を与えられた者

高ぶることなく、ろばに乗って来る

雌ろばの子であるろばに乗って。

わたしはエフライムから戦車を

エルサレムから軍馬を絶つ。

戦いの弓は絶たれ

諸国の民に平和が告げられる。

彼の支配は海から海へ

大河から地の果てにまで及ぶ。

第二朗読 (使徒パウロのローマの教会への手紙 9章8、11～13節)

皆さん、神の霊があなたがたの内に宿っているかぎり、あなたがたは、肉ではなく霊の支配下にいます。キリストの霊を持たない者は、キリストに属していません。もし、イエスを死者の中から復活させた方の霊が、あなたがたの内に宿っているなら、キリストを死者の中から復活させた方は、あなたがたの内に宿っているその霊によって、あなたがたの死ぬはずの体をも生かしてくださるでしょう。

それで、兄弟たち、わたしたちには一つの義務がありますが、それは、肉に従って生きなければならないという、肉に対する義務ではありません。肉に従って生きるなら、あなたがたは死にます。しかし、霊によって体の仕業を絶つならば、あなたがたは生きています。

福音朗読 (マタイによる福音書 11章 25～30節)

そのとき、イエスはこう言われた。「天地の主である父よ、あなたをほめたたえます。これらのことを知恵ある者や賢い者には隠して、幼子のような者にお示しになりました。そうです、父よ、これは御心に適うことでした。すべてのことは、父からわたしに任せられています。父のほかに子を知る者はなく、子と、子が示そうと思う者のほかには、父を知る者はいません。疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。わたしは柔和で謙遜な者だから、わたしの軛を負い、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたは安らぎを得られる。わたしの軛は負いやすく、わたしの荷は軽いからである。」

朗読解説 ー主任司祭より皆様へー

先週の日曜日には大変ご迷惑をおかけいたしました。調査の結果、問題ない事がわかりましたのでご安心ください。最近では東京に限らず全国的に感染者の数が増加していますので、感染予防の徹底でお互いの健康を守りましょう。

さて、今日の日曜日にはロバや馬、牛などの動物、家畜が出てきます。イエス様がナザレで暮らしておられたときに身近にいて、時には遊び相手だったかもしれない動物たちです。これらの動物、家畜たちのことを引き合いに出しながら、今日のイエスのお話が始まるのです。

第一朗読 (ゼカリヤの預言 9章9～10節)

「シオンの娘よ、喜びの声を上げなさい。エルサレムの娘よ、あなたの救い主である方、あなたの王が来られるから・・・」。「子ロバと子馬に乗って主は来られる」。どちらの家畜も平和を象徴する動物です。私たちのところに来られる方は騎馬戦車や戦士たちの弓を打ち破る力強い方でありながら、

主を信じる者にとっては優しい方なのだと、預言者は伝えているのです。主を恐れ敬うことも必要ですが、主である神がなぜ私たちを創造されたかを考えるならば、恐れることよりも、主を讃え、主に信頼した生活を送ることが大事だと預言者は私たちに呼びかけているのです。

第二朗読（使徒パウロのローマの教会への手紙 9章 8、11～13節）

ここでパウロはわたしたちの体の欲求、情欲との戦いに勝利するように勧めています。体の欲求には他に食欲などいくつかのものがあありますが、それらがすべて悪いものではないのです。にしても、例えば私たちの体をわざと危険にさらすことはよくないことですし、今でいえば、マスクをせずに「3密」になるところに出かけるなどはやめたほうが良いのです。もっと言えば、そんなことはしてはいけません。同様に私たちの中で起こる性的な思いも決して悪いものではないのですが、私たちの身体的、倫理的、靈的な危険にさらす行為はよくないことになるのです。パウロの言う「肉の欲に従うならばその行き着く先は死」なのです。私たちの身体的、靈的な危険を誘う行為は避けなければならないとパウロは言っているのです。キリストを身にまとうことによって私たちは生きなければならないのです。

福音朗読（マタイによる福音書 11章 25～30節）

ここでイエスは父である神の細かな配慮深さを私たちに伝えてくれます。現代社会では権力者たちはその力強さをこれ見よがしにひけらかしていますし、あらゆる情報手段を通じてその存在を誇示しています。しかし創造主、唯一の神は決してそのようにはなさらず、力の弱い人たち、人々から顧みなれない人にこそご自分を現わされると言っておられます。神様はご自分をひけらかす必要はこれっぽちもないのです。人間は弱いからこそ自分を大きく見せようとするのです。エリマキトカゲが敵に遭遇すると、その襟を逆立てて大きく見せ、相手を威嚇するのに似ています。私たち

人間も動物ですから弱い存在です。しかし、イエスは私たちに言われます。「私はあなたがと共にいる」と。これが私たちの強みです。多くの殉教者たちも主がともにおられたからこそ、敵や死の恐怖に打ち勝ったのです。そしてまたイエスは言われます。「私のところに来なさい。休ませてあげよう」。これはイエスのリップサービスではありません。どんな困難に遭遇していてもイエスとともにいれば恐れもないのです。現代に蔓延している不安や恐怖は私たちがそれぞれ独りぼっち、孤独になっていることから来ています。神とのつながりを大事にしましょう。

これからは梅雨の末期になります。隣近所の方々と力を合わせて水の災害を食い止めましょう。お年の方は、エアコンを適切に使い、熱中症にならないようにしましょう。また、特別給付金が支払われています。詐欺などが始めているようですので、だまされないように注意しましょう。ご近所との付き合いも信仰生活には大切です。私だけ、私たちだけでは結局みなだめにしてしまいます。力を合わせて暮らしましょう。

カトリック足立教会
主任司祭 野口重光